

各位

上場会社名 株式会社 デジタルデザイン  
 代表者名 代表取締役社長 寺井 和彦  
 (ヘラクレス市場 銘柄コード:4764)  
 問い合わせ先 経営管理グループ長 佐藤 真由美  
 TEL:06-6363-2322(代)

## 業績見込みに関するお知らせ

平成21年1月期中間期の業績見込みにつきまして、前年同期比較で下記のとおり乖離があることが予想されますので、お知らせいたします。

## 記

## 1. 平成21年1月期中間業績見込みと前年同期比較(平成20年2月1日～平成20年7月31日)

(連結)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前年同期(A)(平成20年1月期中間)	—	—	—	—
今回見込み(B)	103	△84	△82	832
増減額(B-A)	—	—	—	—
増減率	—	—	—	—

※平成20年1月期につきましては、連結財務諸表を作成していないため、連結での前年同期比較をしておりません。

(単体)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前年同期(A)(平成20年1月期中間)	86	△33	△32	△190
今回見込み(B)	97	△31	△28	859
増減額(B-A)	11	1	4	1,049
増減率	13.6%	—	—	—

## 2. 平成21年1月期中間業績見込みと前年同期との乖離の理由について(単体)

## (1) 売上高、営業利益および経常利益について

当中間会計期間におきまして、データ通信を中心とした情報サービス事業では、WAN環境でのファイルアクセス時間を短縮する新製品「CIFSアクセラレータ」を投入するとともに、顧客接点の増加、提案力の向上等事業プロセスの見直しを図り、ビジネスパートナー製品との組み合わせ販売及びエンドユーザーへの直接販売に注力してまいりました。

しかしながら、上記施策が売上に繋がるまで時間を要しており、売上高97百万円、営業損失31百万円、経常損失28百万円となる見込みであります。

今後、引き続きビジネスパートナー製品との組合せによる自社ソフトウェアの再販を強化するとともに、自社ソフトウェア及び他社製品を利用したエンドユーザーへの直接アプローチによるソフトウェア開発ビジネスの体制を立上げ、事業の拡大による収益源を確保してまいります。

## (2) 中間純利益について

中間純利益につきましては、平成19年2月2日付で提起しておりました訴訟について和解が成立したことに伴い、特別利益として貸倒引当金戻入益996百円、特別損失として当該訴訟に係る訴訟関連損失79百万円を計上し、中間純利益は859百万円となる見込みであります。

なお、当該訴訟は、日本アイ・ピー・エム株式会社及び株式会社ネットマークス(以下、「ネットマークス社」)等との取引において、当社の未回収となっていた債権1,189百万円について、平成19年2月2日付で訴訟提起したものでありますが、この度、和解が成立したことに伴い、当社は和解金10億円を受領しております。

### 3. 連結業績概況について

#### (1) 売上高、営業利益および経常利益について

当中間連結会計期間におきまして、当企業集団は収益確保のため、引き続き、従来のデータ通信を中心とした情報サービス事業に加え、薬剤及び診療分析データ提供サービス及び不動産仲介、販売代理等の新規事業立上げに取り組んでまいりました。

しかしながら、情報サービス事業の分野において、ビジネスパートナー製品との組み合わせ販売及びエンドユーザーへの直接販売に注力するなどの営業施策が売上に繋がるまで時間を要したこと、診療分析データ提供サービス事業において、分析用データの整備と分析のために必要なデータ蓄積期間が予想を上回り、コンサルティングのみの受注となったこと、また、不動産仲介事業において、住宅物件の想定以上の値崩れとローン審査の厳格化等により販売活動への影響がでたことなどの要因により、当中間連結会計期間におきましては、誠に遺憾ながら、売上高103百万円、営業損失84百万円、経常損失82百万円となる見込みであります。

今後、事業体制の整備および営業体制の強化により、収益体質の改善と早期黒字化のための施策に取り組んでまいります。

#### (2) 中間純利益について

中間純利益につきましては、平成19年2月2日付で提起しておりました訴訟について和解が成立したことに伴い、特別利益として貸倒引当金戻入益 969 百万円、特別損失として当該訴訟に係る訴訟関連損失 79 百万円を計上し、中間純利益は 832 百万円となる見込みであります。

以 上